

<韓国音楽 1>

韓国音楽、国楽、雅楽、唐楽、郷楽、ジョンアク、民族学、梵唄、巫楽、散調、パンソリ、唱奏、雑歌、農楽、新国楽

サムブソニッポブ、12音律、井間譜、合長短、チュイムセ、鼓手、抑制された感情表現、自由奔放な感情表現、短旋律、水平的ファソン、曲線的旋律、弄絃法、下行終止

1. 韓国音楽の概念

われわれの言葉は 韓国語、或いは 国語といわれ、われわれの歴史は 韓国史、或いは 国史といわれてきた。おなじように われわれの 音楽は 韓国 音楽、或いは 国楽といわれてきた。

われわれの 音楽は 大陸から 絶えることなく 影響を受け 形成されてきても いつでも その 独特な 個性を 失なわなかった。それだけでなく 中国をはじめとする 周辺 国家に 相当な 音楽的 影響を 与えた。これは われわれの 音楽だけが 持っていることでなく、われわれの 文化 全体が持っている 独特なことともいえる。

外国人は われわれの 音楽を 韓国 音楽と 普通 よぶが、われわれは 国楽と よぶのがふさわしい。わたしたちも ときどき 韓国 音楽と よんだりもするが なんだか 大きすぎる。国楽というと すこし 楽であろうか、韓国 音楽という と なんか 第3者が われわれの 音楽を よんでいるような 印象を いただき ピンとこない。

われわれが 普通、国楽と いうときは われわれの 伝統音楽ということの意味している。特別に 西洋音楽 輸入 以前の すべての 音楽を 意味する。

事実 西洋 音楽 輸入 以前に われわれの 祖先たちが たのしんだ 音楽には 少なくない 中国的 音楽と 外来 音楽があった。

しかし西洋音楽が紹介されるやこれらすべての音楽が純粹な韓国的伝統音楽とともに国楽と呼ばれるようになった、韓国人自らがかような外来音楽が国楽と呼ばれるに対して何らの問題を提起することはなかった。また当然そうしなければならないと今でも信じている。そこでこのような外来音楽も我々の音楽であると考えられるに至った。この時間を通じて紹介された国楽もまた上のすべての範疇の音楽を含むようになることは勿論のことである。国楽は西洋音楽の輸入後、少なからぬ変化をし、西洋音楽の影響を頻く受けた。

その中で最も著しい事実は、新しい創作国楽の登場である。今まで国楽の作曲活動をあまり行わなかった。しかし、西洋音楽の影響により、1939年に最初の創作国楽が登場して以来、これまで

夥しい作品が溢れ出た.このような作品の中には伝統的技法によるもの,西洋音楽的技法によるもの,この二つの技法が混ざり合っ成り立ったもの,あるいは前衛的な作品など数えきれないほど多い.このような新しい作品が国楽や国楽発声によってすべて国楽に分類されている.

一方 わたしたちの 音楽を 国楽といわず 韓国 音楽という時,時には 意味が 広がる.このような 場合では 国内の すべての 音楽 現象を 意味している. この中では国楽を含み、われわれの国の すべての 西洋音楽とその他の音楽までが含まれる. 特別に 韓国人でない 第三者の 立場で みたとき このように 解釈されることが多い. 勿論 第三者も 純全な われわれの 伝統音楽だけを 韓国音楽と よんだりもする.しかし 韓国史が 西洋 音楽 輸入 以後の 国内の 西洋的 影響による すべての 歴史的 変化を 含み, 韓国 文学 やはり 西洋式の詩と いろいろな 文芸 作品を 含み, 韓国 建築が 伝統 様式によることだけ 含むのではなく 西洋式 建築物まで 含むように 韓国 音楽も 韓国 内の 西洋 音楽と いくつかの 音楽までを 含みながらきた. 勿論 このような場合の音楽は必ず韓国人によるものでなければならない.

われわれは これを 広い意味の 韓国音楽と, 前のことを せまい意味の 韓国音楽とよぶことにする.そして われわれの話は せまい 意味の 韓国 音楽である 国楽に 関してだけ 焦点が集められたものである.

2. 韓国音楽の分類

雅楽

雅楽は 元来 中国の 宮中で 使用される 祭祀 音楽 と 儀式 音楽を 意味する. 韓国に 中国の 雅楽が 本格的に 入った時は 高麗の時で, 西紀 1116 年である. 当時 中国の宋(960-1279)から 贈物を受けた雅楽は 確声雅楽という名前で行われて, すぐ高麗宮中で いろいろな祭祀と 儀式に 使用された.

しかし 当時の 雅楽は 不完全であり, 15 世紀 初 朝鮮の世宗大王のときに 完全な かたちで 演奏されるようになった. 世宗大王 のとき バクヨンによって 整理された 雅楽は 朝鮮 末まで あまねく 使用された. いろいろな 宮中の 祭祀と 儀式が なくなるにつれ 今は孔子と その弟子のため 文廟で 文廟祭礼楽という名で 演奏される 音楽だけが ただひとつ のこった. ただ ひとつ のこった この 文廟祭礼楽は 中国 古代 音楽に 属し 東洋で 最も 古い 音楽の中の ひとつである.

唐楽

唐(618-907)は 中国の 歴代 王朝の中で最も強力な力を持っていた国の中のひとつである. 唐楽という この 唐の 音楽という意味である. 韓国に 唐の 音楽が いつ 最初に 輸入されたのか 確実ではなく, だいたい 統一新羅(668-935) 初期と考えられている.

唐楽という 元来 唐の 音楽である意味をこえ 韓国では 中国 宋の 民俗楽までを含んでいる。この宋の 民俗楽は 前に のべた 雅楽の輸入 2年 前に 本格的に韓国に 紹介され、高麗 末には 43 曲ほどの多くの曲が 宮中で 演奏された。以後 朝鮮の全時代にあまねく 演奏された 唐楽は 全部 なくなり、今は ‘보허자’ と ‘낙양춘’ 2 曲だけが 演奏されている。そして この 2 曲も 唐楽 本来の すがたは なくなり 韓国 の音楽化 され中国音楽の趣を 感じることは 難しい。

郷楽

郷楽という 唐楽に 対して韓国 音楽という 純粋な 韓国 音楽 という意味である。しかし 事実 純粋な韓国 音楽と共に)唐楽 輸入 以前の 韓国にあった すべての 外来 音楽までを含んでいる。このような 現象は 西洋 音楽 輸入 以前の 韓国に あった すべての 音楽を 国楽とよんでいる 現在の 状況と 同じである。

これまで 言及した 雅楽, 唐楽, 郷楽は 前に 主に 宮中と 知識 階級により 使用された 音楽 である。ここでは 一般人たちが楽しんだいくつかの 種類の 民間 音楽は 包含されていない。よって 上の 分類法は 現代にあつては 合理的とはいえない。さらに 民謡を 含む いろいろな 民俗音楽は その 数と 種類が 宮中 音楽より もっと 多く、音楽美も 宮中 音楽とはちがうため 無視できない。従って最近では 宮中で 演奏される 雅楽, 唐楽, 郷楽を 正しくないと言い、雅楽, すなわち正楽と よび、ほかの 民間 音楽を 民俗楽とよんだりもする。

しかし この 方法も正しいとは言えず、ジャンル別に 分類されもする。すなわち 正楽と 民俗楽として 分類されるなら 民俗楽に起源する立派な 芸術性をもつ 音楽は どのように 分類されるべきかという 問題にあたる。また 仏教音楽は 正楽と 民俗楽どちらにも)属さないため である。

このような問題点により現在の 韓国 音楽 を ジャンル別に 分類すると つぎのようになる。

- 1) 雅楽, すなわち(→或いは) 正楽: 前の 宮中の 祭祀や 残置に 使用された すべての 音楽と 兩班たちの 知識人たちが たのしんだ うたを 含んでいる。
- 2) 梵唄: 仏教 音楽の 一種で 死んだ 人 のため 禮拜儀式である 齋で うたう うたと 舞踊を いう。
- 3) 巫楽: 巫堂が 儀式をするとき うたう うたと 伴奏 音楽をいう。
- 4) 散調: 巫楽の 影響を 受けて つくられた 即興的な 器楽 独奏曲として 100 余年 前に 発生 された。
- 5) パンソリ: 巫楽の 影響を 受け つくられた 独唱曲として歌手の一人が立ち、長い物語を身振りとともにプクの伴奏に合わせて歌う。
- 6) 唱奏: パンソリが 演劇の 影響を 受け 西洋 音楽の opera や operatta のように 総合的な 劇 音楽形態に変わるものを言う。

- 7) 雑歌：ソウルと京畿道を中心に発生し 広がる 民謡とは 性格が 少しちがう うたで 細かい 階級の 人 たちのため 広がった。
- 8) 農樂：農民たちが 農事をしながら 協同精神を つちかうかめ、すなわち むら(→村)の 祭祀などを 行うとき 使用した 音楽と 舞踊 およびさまざまの技を組み合わせた massgame 的性格をもつ 音楽である。
- 9) 新国樂：20 世紀に入って 新しく 作曲された 国樂を いう。

3. 韓國音樂の音の組織と音階

韓國音樂に使用される音は、西洋音樂と同じく 12 音である。この 12 音それぞれの音程は半音になっており、この音などを三分損益法という音の産出法によりつくられている。三分損益法は西洋音樂の pythagoras 音階の 産出法と その 原理と 實際が おなじである。

この方法は まず 基準になる 音と 貫(或は 弦)の長さを決め、ここで3分の1の長さをとった 弦や貫を鳴らせば完全5度上の音が出るようになる(三分損益)。その後、この長さの3分の1を もう一度 再び加えた弦や貫を鳴らせば完全4度下の音が出ることになる(三分損益)。

この方法で 12 音を産出し、音の高さによって順に整理すれば次のようになる：

ファンジョン(+黄鐘:C)、デリョ(+大呂)、テジュ(+太簇:D)、ヒョプジョン(+夾鐘:D#)、ゴソン(+姑洗:E)、ジュンリョ(+仲呂:F)、ユビン(+蕤賓:F#)、イムジョン(+林鐘:G)、イチク(+夷則:G#)、ナムリョ(+南呂:A)、ムヨク(+無射:A#)、ウンジョン(+応鐘:B)。

上の 12 音を 12 音律とよび、音名は律名とよぶ。この中で基本になる律はファンジョンである。この ファンジョンの高さは、西洋音樂の C と Eb に 該当し、C は雅樂である。ちがう(→C は)唐樂 のような 中國系統の音樂に該当し、Eb は 郷樂 系統の 音樂に 該当する。そして この 12 律の 名前は わたしたちの 固有のものでなく 古代 中國人たちが 使用したものを かりて使ったものである。

4. 記譜法と 樂譜

われわれの音樂で使用された樂譜は 8 種があった。この 8 種の樂譜には古代 Greek の文字譜のような棋譜法、10 世紀の西洋音樂の Ode の文字譜のような棋譜法、Tabulature と Gregorian Chant の Neuma のような記譜法などが使用されたが、現在は井間譜とよばれる樂譜が使用されている。

井間譜は 15 世紀 初に 世宗大王(1397-1450)がつくった樂譜であり、四角の空間を 4 つ作ってそのなかに 12 律の律名の最初の文字を書いて音の高さをあらわした。井間譜は 東洋 最初につくられた有量樂譜として 音の高さと長さを 正確に あらわしている。井間譜は 15 世紀 以後、現在にいたるまで なんども 改良され、時代によって 使用法が変わってきた。前の 井間譜のひとつの空間の ながさに 對しては學者の 解釋により 一致しておらず、現在はほぼ 4 分音標の ひとつに該当する。

5. 長短

韓国の音楽は 長短という一定した長さの Rhythm Pattern を もっている。

普通、ブク(大鼓)やジャング(鼓の一種<杖鼓)によって演奏される長短は伴奏の役割りを擔當してもいて、時には指揮の役割りを擔當してもいる。長短は上で述べたように一定の長さの Rhythm Pattern であると言うが、いつも同一に反復されるとは限らない。大概は音楽の最初の部分だけ基本 Rhythm を演奏するばかり 一定の長さの中で数多くの變奏を續ける。そして、この演奏 方法では 定められた 規則があるのではなく、長短についていく能力により即興的に成り立つことが大部分である。このような 變奏過程において成り立つ Syncopation と Hemiola は 無限の音楽的な快感を提供する。

長短は、正樂と民俗樂に限らず大部分の音楽に隨伴されるが、長短がない音楽も少なくない。概ね、正樂は 基本 長短のツールを大きく外れることなく、民俗樂では無数の長短の變奏があることになる。長短の演奏法は普通、右手に太鼓のばちやジャングチェを握って打って、左手は素手で打つ。長短を打つ原則的な順序は大概 初め 両手で一緒に弾き、次(後にはそのままブク(大鼓)やジャング(鼓の一種)の右側を打つ。そして續いて素手で左側を打って、最後に右側を轉がしてやる。しかし この 原則は だんだん なくなり、時々ばちを二度急に鳴らしたりする。

最初 韓國音楽に 接しようとする人にとって長短の 理解は とても 難しいことの 一つである。しかし 正樂と民俗樂を莫論し、ほとんど 全ての韓國音楽は、音楽の最初の音を強拍でし、合長短で始まるためそれぞれの長短の初めを區別することはあまり難しい問題ではない。

そして音楽が續けて進行され ほとんど いつでも毎長短の初めは合長短で 始まるから、この Pattern だけに注意を向ければ、われわれの音楽鑑賞のはじめの一步はおのずから分ることになるわけである。

一方、パンソリや散調のような音楽では長短に「チュムセ)」と言う独特な附加的な音楽要素がある。チュムセは伴奏者のブク(大鼓)やジャング(鼓の一種)を打つ人が演奏者の演奏技術に合圖を送って「ウイ、良い、良い、アルシグ」などの言葉で音楽の興を高めることを言う。普通音楽の period や phrase の端にツイムセを付ける。面白い点はツイムセは伴奏者だけではなくて大衆も一緒にすると言うことである。しかし正樂ではチュムセを使用してはならない。チュムセという独特な附加的な音楽要素がある。

韓國音楽で、長短を合わせる人を鼓手という。鼓手は以前から大変重要視されてきた。特にパンソリでは、歌う者が後でブクをする人が先だと「一は鼓手、二に歌の名人」と言う言葉があるくらいであった。

6. 韓國 音楽の 一般的な 特徴

韓国の音楽は、西洋音楽と違う多くの特徴を持っている。勿論、西洋音楽で見られる共通的な性格も持っている。それで私たちの音楽の特徴を話すなら、西洋音楽や その他 いろいろな音楽と われわれの音楽を 綿密に 比較 分析し、われわれの音楽にだけ 見える点を選び出して特徴であると言ってこそ正しい。しかしこの作業はとても難しいことである。

だから、ここでは一般的な特徴と言う言葉で これに代わりながら、時にはわれわれの音楽ではない別な音楽でも見える点を話す場合もあろう。しかしこのような話は藝術的なことではなく、われわれの音楽の理解に助けを與えることが主目的であるから、そのように無理ではないと考える。

現在のわれわれの音楽は先に話したように正樂と民俗樂で區別される。ところでこの正樂と民俗樂は音楽の表現方法が互いに異なる。もちろん同じような音楽的な要素と特長もとても多いが基本的に下敷きになってある表現方式はとても違う。まず正樂は感情表現を可能な限り抑制しようとする。それゆえ、ゆったりした音楽が多く、旋律の變化も著しくはない。

時には音楽的なおしゃれと味がない程度に簡潔で奇麗な印象を與える。音楽が速くて旋律の變化がひどければわれわれの心性もそのようになるだろうと言う考えのためである。もともとはその大部分が鑑賞用音楽ではなくて儀式用音楽であった。

そして表題音楽的な性質が強くて合奏曲が大部分である。また合奏曲のそれぞれの part をひとつの楽器で獨奏すればまさに獨奏曲になったりする。一方民俗樂は感情の表現が率直で自由である。だから速い音楽が多く、ゆるくて速い速度の變化や旋律の變化も激しい。音楽の粹と味を充分に出すために自由奔放な音楽的な表現を使用する。そして時には客までも音楽の現場に參與させる獨奏曲がより多い。

このように異なる点や、二つの音楽の器楽曲はすべてがもともと純粋な器楽曲から出發した場合がとても稀だ。大體は聲楽曲から器楽曲も由來になっている。そして西洋音楽の指揮者のような音楽を率いて行く人がないと言う特色をもつ。

正樂と民俗樂のいろいろ共通した性質の中でいくつかの点だけを紹介すれば次のとおりである。

か) われわれの音楽は單線律で構成されている。一方西洋音楽は複線律になっている。

な) 西洋音楽の和聲的な 觀念は音の高さについての垂直的な觀念が主であるのに反して、われわれの音楽では水平的な觀念による音色が主になった和聲的 觀念を持っている。

た) 西洋音楽は直線的な旋律でなっているところに反して、われわれの音楽はより曲線的な旋律になっている。

ら) 曲線的な旋律を強化するために弄絃法と言うすぐれた手法を持っている。弄絃法は西洋音楽の vibrato と似た点はあるものの根本的な性格は違う。

弄絃法には音を振ってくれる揺聲、高い音で低い音に進行するとき音を流れる退聲、低い音で高い音に進行するとき低い音で押し上げたり低い音をぼんと打って上がる時に出る音である典聲がある。

この3つの方法は韓国音楽の曲線を成す基本要素で、不足している3音を出して5音となった音楽に潤を与える。従って、絃法の理解は長短法の理解と共にわれわれの音楽鑑賞のはじめの段階になる。

ま)韓国の音楽は強拍で始まって弱拍で終る場合が、そうではない場合よりずっと多い。一方西洋音楽は反対の場合が多い。そのようなわけはわれわれの言語と西洋の言語が音楽に及んだ影響のためである。

ば)われわれの音楽は上行終止より下行終止がはるかに多い。これもわれわれの言語が音楽に及ぼした影響である。

さ)長短は韓国人たちの日常的生活リズムの變形と見ることができる。長短の初めが強く始まる点以外にも約3分の2地点で強く現れることは韓国人の生活リズムがそのような所から由来しているといえる。

韓国の音楽には♩のリズムや♪のリズムはあまり現われず、♪のリズムが圧倒的に多く現われる。そこで韓国人は♩や♪のリズムの連続した演奏は下手である。

これ以外にも韓国の音楽の特性を現わす音楽的要素は少なくない。しかしこれほどの特徴だけ知っていても韓国音楽の鑑賞による理解に相当役に立つものと考えられる。

恥ずかしい現象は私たちの音楽のこのような特性が不幸にも韓国人によく知られていない。何故ならば20世紀に入って我が国のすべての教育が洋式に走り、伝統的な歴史や文化に関心が遠のくことになり、音楽もしかりであったためである。そして現在の音楽人口も西洋音楽人口が韓国の音楽の人口より遙かに多い。

1. 韓国音楽と国楽という言葉はどのように用いられますか？
2. 国楽はどのように分類されますか？
3. 韓国音楽の音階組織について話してこましよう。
4. 韓国音楽の長短とは何ですか？
5. 韓国音楽の特徴はどんな点ですか？

この時間では韓国の音楽1について学習しました。

次の時間では韓国の音楽2について学習します。

お疲れ様でした。